常徳院殿様御馬石初ら蒔く事　今号御乗馬始記

文明五卯月十日午刻花乃御所ゟ石初ら花
松の庭ゟくめすなり若公様御ちやうんを石
て南北行ゟ石こ北ゟ北ゟ戸ゟ御
出有て西乃御ちんのうへ御立ゟ其時へ
い中門ゟ管領右馬頭其外役者衆伊勢守
色い中門をあけゟ北管領衆ゟ
若公様御出伊勢守ゟ御ゟ北南ゟ衆若公様を
ゟ北ゟ北ゟの松乃もとゟ南ゟ
いゟ北ゟ役申ゟ御ゟ御鞭を小

笠原氏郎少輔持て参御左のてこうの御腰に
さしゆ也御鞭ゆるし給柳乃はし鞭なるのこうの有
こ之後伊勢八郎左衛門御皆をまいらせ給ふ如者
めさしすゆるのり若公様南むきに御立有也
伊勢守御いしやく也御皆ハ赤松進上播磨皮
こもこ也御皆九日ハこうていのさゆ也はし馬と
管領のの進上乃ゆうけ但ゆるにゆうく也
うめい敬進上の思りめすなの御鞭ハゆるかい御
隆業三伊勢左京亮作也へ中門乃外と次第西南
初ゆうく南ゆうゆ左京亮清元東ゆうゆ公

てゆてゆを若公様を伊勢守ゆうゆ中はし馬にゆう
世御そくに伊勢守小笠原氏郎少輔ゆの御皆
さゆ赤也御馬乃ゆにに右の方に伊勢八郎左衛門
左左京亮付申て はし馬をゆし赤本のゆいへうち
御出しゆのてそ也ゆの西南へこへんうち御出
しゆのこへんめゆうちひろくゆあしても也
のゆくゆの内へはし馬をめしゆ入ゆなの南の方へう
ちゆうゆ鞭の宮をゆこゆれこへんうち御出
ひて又鞭乃中程のうちと赤に御馬と立也
ゆめゆこゆく南の方へ伊勢守ゆうゆはゆし

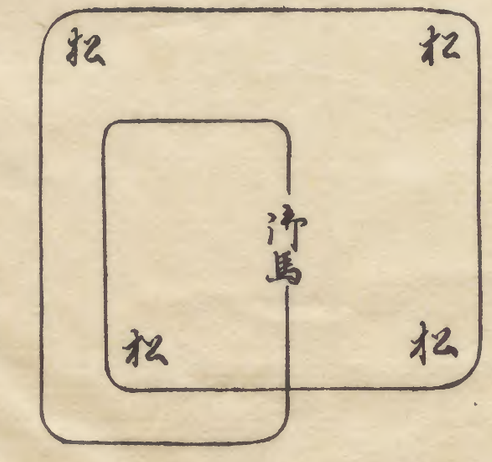
中山白紙白木にて作る鞭をも御留めとも初め後人
為らしれゆくは若のてくれること戸屋羅御留
也御馬めくるる冥御所様中門の西の
門くに座あるも也菅原へい中門の南西のへい
さいに被置也右馬頭殿伊流の中にい何也也
先を西の方へい中門乃さいに被置也御初大
舘千郎殿御うちかもくるる也来申北をこの
松のすくに来に被置なのはるこ流ハのや
のさのさるおおのく置皆ふ為うしる也
此外御遊ふ達も何作なるこなり

後人
小笠原民部大輔御鞭をまいらせ同法るる来
伊勢守貞親ハ御馬の口法く同法るる紀来
伊勢守九郎ハ御馬の口法く
伊勢守九郎亮御馬ひきて来同法馬乃口法く
大舘千郎殿御剣乃口後ちり
班後東の御七間ほく御対面有く先御所様御
対面也菅領御馬太刀進上その御ものに何ハ
其外国の冠進物同公家御供流外様公方様
行山法師少く医師陰陽家の名太刀進上

永福寺宮奉行宛ていとう小袴九宛ものを
ものを但浄ものと宛又宮奉行ものを宛ハ表
かしらかたのを宛ハ奉行同前ものを宛ハ御家
進上ていて後管領被出ハ也表浄夫力進之ハ
て後又若公様御出あの法財面同前愛宛重而御
太力と指糸被ものをめ九てを浄七間の白中九
ものをし九西のものさ小のものに何之也中須法性
宛ものを若公様出対面ものを宛ハ
ものを九ものを若の出ものを
ものを後代のものあに注置者なの

御中門内
浄所橋座
ハ也

軒東

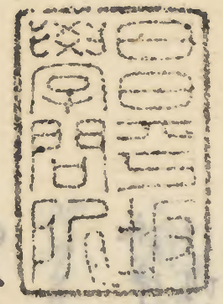


加松ニ三度ものを也
如斯うち浄入ハ也

ものを御屋ハ繪圖

聖日御太力助兼浄頃高尾張守跡給之云ハ

右御乗馬始記以古寫一本校合



羣書類從卷第四百四

慶應乙丑

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan